

加茂市中小企業景況調査報告(平成24年7月～9月期)

回復傾向にあったDI平均値は、前期(4～6月期)の4.2ポイントから10.6ポイント悪化し、14.8ポイントとなった。全業種において悪化に転じており、特に基幹業種である建設業と製造業の悪化は、今後の当市況に大きな影響を与えることが懸念される。大半の業種が需要の停滞を当面する問題点として1位にあげているが、小売業では購買力の他地域への流出が新たな課題になっている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		33 (9) 	9 (28) 	0 (13) 	16 (2) 	27 (11) 	46 (0) 	31 (33) 	50 (33) 	38 (5) 	25 (9)
採算		17 (9) 	34 (50) 	7 (0) 	13 (17) 	9 (11) 	36 (11) 	27 (46) 	46 (44) 	28 (15) 	35 (13)
資金繰り		8 (9) 	8 (27) 	15 (0) 	10 (19) 	0 (0) 	0 (0) 	24 (42) 	29 (39) 	10 (20) 	27 (14)
業況		8 (0) 	25 (36) 	12 (5) 	16 (12) 	9 (22) 	10 (12) 	35 (33) 	42 (35) 	28 (15) 	30 (21)
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
	3位	請負単価の低下		製品ニーズの変化への対応		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
業種別 コメント		<p>前期に引き続き災害復興による公共工事の増加により、売上高は大幅に回復した。しかし、依然民官需要ともに先行きが不透明である。</p> <p>来期は、請負単価の低下を要因に採算面で厳しい経営を強いられることになる。</p>		<p>前期まで全項目とも回復傾向にあったが、輸出関連製品の不振やエコカー補助金が終了間近であることなどにより、再び悪化に転じると予想される。</p> <p>今後も原材料価格の高騰や多品種小ロットの受注が続くため、生産性、技術力の向上と売上確保のための積極的な新規受注先の開拓が必要である。</p>		<p>販売先の業況悪化の影響を受け、売上が低下。売上高DI値が大幅な減少となった。</p> <p>来季の見通しについても需要の停滞により売上は減少傾向、仕入単価の上昇を販売価格へ転嫁することができず採算も厳しい状態が続くと見ている。</p> <p>今後情報力を強化し商品を提供するだけでなく、消費者へ提案型の経営が必要である。</p>		<p>猛暑の影響により夏物関連を取り扱う業種で若干の回復がみられたが、当面の問題である購買力の他地域への流出は止まっておらず全体として業況は悪化となった。</p> <p>来期はお歳暮商戦がスタートするが価格以外で大型店と競争できる体制を整え、自店にしかない品揃えやサービスにより、来店客の増加を図る必要がある。</p>		<p>猛暑により外出が控えられたこと等を要因に客数が大きく減少し、厳しい状況は続いている。</p> <p>来期は忘年会シーズンを迎え、一時的な回復が期待されるが、景気低迷により厳しい状況が続くと見ている。</p> <p>顧客ニーズをしっかりと掴んだサービスへの取り組みが重要である。</p>	



とくに好調 (50 DI) 好調 (25 DI<50) まあまあ (0 DI<25) 不振 (25 DI<0) きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

()は前回調査時のD・I値